

ご自由にお持ち帰りください



公益財団法人 宮城厚生協会

坂総合病院

NEWSaka

2015.12
No.2

発行責任者：坂総合病院院長 内藤 孝



防火・避難訓練（詳細は6ページに）



Contents

- 「防火・避難訓練」 ①
- 坂総合病院「登録医会」 ②-③
- 新たな登録医のご紹介 ④
- 鳴瀬中央医院院長 齋藤雄康先生
- 第17回宮城県救急医療研究会学術集会 ⑤
- 2015年度第2回防火・避難訓練 ⑥
- 宮城民医連で「仮設住宅訪問調査」 ⑦
- インフォメーションほか ⑧

病院理念

わたしたちは、患者さまの権利を尊重し、
共感・協同・平等・安全の
医療をめざします。



内覧会を兼ねて 登録医会開催



乾杯



小幡副院長による開会の挨拶



乾杯のご発声は塩釜医師会理事の及川潤一先生

11月14日(土)の午後、病院2階教育ステーションにて、増改築部分の内覧会を兼ねた登録医会を開催致しました。

1部 内覧会

救急センター(救急室・救急病棟)を中心に心臓カテーテル室、リハビリテーション室、心疾患リハビリテーション室などの増改築部分を中心に見学して頂きました。

心臓カテーテル室は小幡副院長が、救急センターは郷古救急部部長が、リハビリテーション室は富山副院長がそれぞれの特長を説明しました。

ご参加頂いた先生方からは、『新しい心カテのモニター(58インチ)大きいですね。』や『救急病棟はかなり広いですね。』などの声が寄せられました。

2部 登録医会

冒頭予定しておりました院長の挨拶は、都合により小幡副院長が代行しました。『これまでの増改築の進捗状況につきましては、随時ご紹介して参りましたが、遅ればせながら登録医の先生方にご見学頂く事が出来良かったと思っております。今年、高血圧外来の閉鎖に伴い登録医の先生方に大変お世話になりました。今後も当院は外来で落ち着いた患者さんはなるべく地域の先生方にお願ひし、救急や入院にシフトして参りますので、何かあればご紹介頂く流れを、と考えてお

ります。救急の受入につきましては、救急センターの稼働に伴い、ベッドなしでのお断りは飛躍的に減り、受入率も向上しております。研修医などの育成にも力を入れつつ地域医療支援病院としての役割を果たして参りますので、今後とも宜しくお願ひ致します。』と述べました。

続きまして乾杯のご発声は、及川医院の及川潤一先生(宮城県塩釜医師会理事)にお願いしました。及川先生からは、『開業して35年以上になりますが、かかりつけの患者が夜に具合が悪いと言われると、朝まで様子を見てもらうことがありましたが、今日坂病院の施設を見て、坂病院に紹介することが患者のためだと感じました。』とうれしいご挨拶を頂き、乾杯とな



内覧1 心疾患リハビリテーション室



内覧3 救急病棟の手作りポスター



内覧 2 心カテーテル室の説明をする小幡副院長
(左から2人目)

りました。

歓談途中に救急科、循環器科、消化器センターの報告を行ないました。

◇【救急科】郷古親夫救急部部長

救急車の受入について昨年は震災以降はじめて3000件を超える受入となりましたがお断りすることもあり、受入率は69%でした。今年度は10月までで、2000件弱、特に救急病棟が稼働を開始した7月以降は1225件で受入率も80%くらい向上し、目標の3500件は達成出来そうです。医師体制は、私と5月から専門研修から帰任している佐々木隆徳救急部科長2人の指導医と研修医で対応しています。日勤帯のお断りはほとんどなくなりましたが、1人医師体制の整形疾患



内覧 4 救急病棟の説明をする郷古救急部部長
(左から3人目)



内覧 5 リハビリテーション室を案内する富山副院長 (左端)

と時間外の救急対応中によるものは今後の課題ですが、準夜帯の医師を2名体制にするなど改善を進めているところです。

◇【循環器科】渋谷清貴循環器科医長

見学頂いた心カテ室と新しい心カテ装置の紹介のあとに、実際に新旧の心カテ画像の比較を行い、新しい装置の画像のクオリティーの高さを示しました。

患者様にとっては、造影剤の使用量がこれまでより少ない量で対応できること、造影剤を使用できない方のために炭酸ガスを使用した造影撮影ができ、被曝量もこれまでより低く抑えることができるようになりました。また、高名な先生方をお呼びして技術研修を行うなど心カテ手技の技術向上にも努めています。

◇【消化器センター】阿南陽二消化器センターセンター長

消化器センターは、救急センターのように新しい建物が出来たと言うことではなく、消化器内科と外科が中心となってシームレスな診療を構築し、患者サービスの向上を目指すために立ち上げたセンターです。がん診療では、初期診療の時点から両者が緊密な連携をとり、遅滞なく適切な治療を提供します。がん診療に関わる消化器科、外科、腫瘍内科、緩和ケアなどの医師はもちろん、薬剤師、看護師、経済的な問題を抱える患者さんのためには社会福祉士など、多職種が一堂に会し、患者さん毎に最適な治療方針を討議し決定するカンサーボードをスタートしております。

『登録医の先生方から』

- おだかクリニック小鷹日出夫先生からは、『救急のお願いをしたい時、せめて18時くらいまで連携室が開設していると助かるのですが…』
- かしま田園クリニック鹿島哲先生からは、『施設の囑託医をしているが、ご家族の意向で入所者を紹介するか施設で対応するか決まることが多い。何かあれば病院で診てもらいたいと考えている家族が多いので救急での受入をお願いしたい。』

閉会の挨拶は、高津副院長がご参加頂いた先生方への謝辞を述べ、連携強化を再確認し、散会となりました。

当日は、あいにくの悪天候の中ご参加頂きました登録医の先生方誠にありがとうございました。また、先生方から頂きましたご意見を受けとめ、改善に取り組んで参りますので、今後ともご指導の程宜しくお願い致します。



齋藤 雄康 院長

Yukou Saito

鳴瀬中央医院

内科
内科一般
外科
整形外科専門



スタッフの皆様

東松島市の鳴瀬中央医院院長の齋藤雄康先生に新たに登録医のご申請を頂きました。

訪問させて頂こうとお電話しますと、病院建替えのための東松島市役所鳴瀬庁舎そばの仮診療所への引越しの最中ということでした。お伺いした日が仮診療所での診療スタートの日ということでしたが、お忙しい中笑顔でご対応頂きました。

院長先生の専門は、もともと外科でしたが、現在は整形外科や内科疾患の患者様が大半を占められ、年齢層も小児から高齢者まで幅広く、総合診療医的に日々の診療にあたられております。また、対応が困難な患者様につきましては、随時高次医療機関にご紹介されているそうです。

当院へのご要望を伺いますと、『東松島市及び石巻地区は、小児科、皮膚科及び治療に難渋する糖尿病患者への対応に苦慮することが多く、精査・加療が必要な場合には対応して頂ければ幸いです。』とのことでした。是非ご紹介下さい。

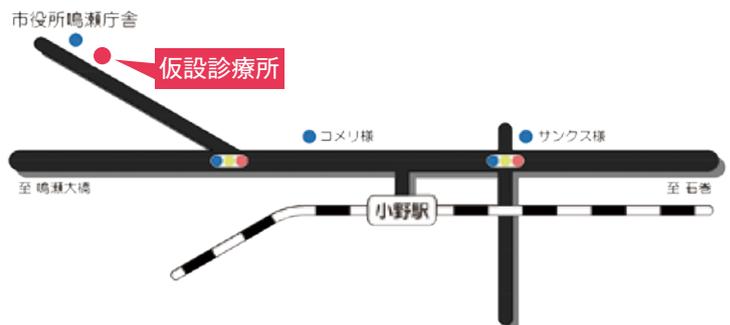
新しい診療所は、来年7月頃に以前の場所で再スタートを予定しているそうです。

齋藤先生、スタッフの皆様、お忙しい中ご協力頂きましてありがとうございました。



病院改築に伴う仮設診療所のお知らせ

東松島市小野字新宮前15-1
JAいしのまき鳴瀬支店内（鳴瀬庁舎そば）
TEL. 0225-87-3853 FAX. 0225-87-3982
<http://>



診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9時～12時	●	●	●	●	●	●
午後 2時～6時	●	●	●		●	

テーマ…「宮城県の救急医療の

質の向上を目指して」

学術集会事務局長・クリニック
診療サービス課

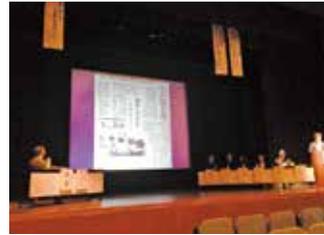
庄司 圭一



①あいさつする会長の郷古医師



②お話しする會田先生(右)



③6名の方から発表

今年坂総合病院が主管を担当して開催

10月11日(日)、約180名(坂20名)が参加し、多賀城市文化センターにて「第17回宮城県救急医療研究会学術集会」が開催されました。この学術集会は県内の病院が持ち回りで開催しており、17回目の今年は当院が主管担当で、会長を郷古親夫救急診療部部長が務めました。(写真①)

4つのプログラム

事務局会議を数回行ない、テーマを「宮城県の救急医療の質の向上を目指して」としました。

また、学術集会の主なプログラムとして「特別講演」「シンポジウム①」「シンポジウム②」「一般演題」の4つを企画しました。

特別講演

(写真②) 會田悦久先生(青森県立中央病院総合診療部副部長)をお招きし、「青森県立中央病院におけるドクターヘリの運行状況について」と題してドクターヘリの特色・診療状況に関して詳しく講演いただきました。

シンポジウム①

(写真③) 多職種型シンポジウムとし、「各職種ごとの救急医療の質を高めるための取り組み」を、救急科医師・往診医師・看護師・社会福祉士・救急隊・県医療整備課の6名から発表がありました。

当院からは医療相談室の東乃梨子係長が社会福祉士の視点から坂病院の取り組みを発表しました。

シンポジウム②

救急医療を担う中堅医師によるシンポジウムとし、「自施設で救急医療の質を高めるための取り組みと研修医教育」について、5つの病院の中堅医師から発表がありました。佐々木隆徳救急部科長が当院の取り組みを発表しました。

一般演題

また、一般演題I~IVでは、阿南陽二副院長、佐々木隆徳医師、郷古親夫医師、伊在井淳子医師の4名が座長を務め、当院からも2演題が発表されました。(写真④)

最後に、会長の郷古医師から『今日学んだことをこれからの救急医療に活かし、各病院・救急隊・行政機関で連携しながら救急医療の質の向上を目指していきましょう。』と報告があり閉会しました。



④活発にフロアとの質疑応答がありました

10月22日（木）の午後、50名（実習生含む）以上の職員が参加し、今年度第2回目の病院・クリニック合同の「防火・避難訓練」が実施されました。今回も塩釜消防署のご協力をいただきました。

目的・想定は

準夜帯に1階救急病棟からの出火

「防火・防災マニュアル」に基づいて、通報・初期消火・避難誘導を行ない「総合訓練」の基本的理解を深め、少人数の状況下での行動について認識する機会とすることを目的に実施されました。

今回は、今年7月に新たに開設された病院1階救急病棟（病棟の東側休憩室）からの「準夜帯の出火（20時頃）」を想定しての対応訓練でした。

訓練スタート

13時30分に訓練参加者はセミナー室に集合し訓練内容を確認してから、それぞれ担当配置につき14時に訓練スタート。

1階救急病棟の煙感知器が作動し、防災室より『1階で火災のベルが鳴りました。確認のため次の放送をお待ちください。』の放送が。

（写真①）救急病棟では、準夜勤務中の看護スタッフが、まず火元を確認し、職場指揮者が指示し、消火器での初期消火、火事ぶれ、救助に駆けつけた職員により、模擬患者（職員）をベッドからストレッチャーに移し非常口から増築棟1階ピロティ（吹き抜け、車庫部分）まで避難しました。（写真②③）

同時に、防災室では緊急通報装置で消防署への通報訓練が行なわれました。

「消火器操作訓練」

次に、1階ピロティで「消火器操作訓練」が行なわれました。

塩釜消防署の方から消火器の操作方法について、ていねいに説明していただき、実際に放水訓練を体験しました。（写真④⑤）

講評・講話

一人一人の危機管理意識を養っていただきたい

塩釜消防署消防司令の鈴木俊也氏より講評と講話がありました。

はじめに講評として、今回の訓練についての職員の動き方について、具体的に問題（課題）などいろいろ指摘がされ、また、アドバイスがありました。

講話では、防火・防災全般についての事例での実情報告や各家庭で注意すべきことなども含め詳細にお話していただきました。そして、火災発生時の行動について、『常日頃からの心構えが大切です。今後とも防火・防災に引き続き取り組み一人一人の危機管理意識を養っていただきたい。』と述べられました。

総評

訓練を継続し万が一に備える

（写真⑥）最後に、防火・防災委員長の小幡篤副院長があいさつしました。『初めての救急病棟での訓練ということで戸惑いもあったが、改めて、参加された皆さんは職場に戻ったら今回の内容を伝え、また各職場で防火設備状況を確認していただきたい。訓練を継続し万が一に備えていきましょう。』と述べ終了しました。



①消火器で初期消火



②ストレッチャーで非常口から避難



③避難所のピロティへ（2）



④消火器操作方法的説明



⑤消火器放水訓練



⑥小幡副院長があいさつ

宮城民医連で「仮設住宅訪問調査」実施

坂総合病院事務部長 高橋 輝美

調査目的は入居者の健康と 住まいに関わる状況把握と支援

東日本大震災から4年8ヶ月となりますが、長引く避難生活、仮設住宅の貧弱な生活環境の中で入居されている方の健康問題が指摘されています。市町村によっては『5年の入居満了』をもって仮設住宅からの退去が迫られることとなります。このような中、宮城民医連では、東日本大震災復興支援会議を設置し、仮設住宅に入居されている方の健康と住まいに関わる状況を把握する目的で訪問調査を実施しました。

調査は、「11月3日（火）七ヶ浜地域」と「11月14日（土）塩釜・多賀城地域」の2日間仮設住宅を訪問しました。

11月3日（火）は宮城民医連加盟の事業所、みやぎ東部健康福祉友の会の会員など50名ほどが坂総合病院に集合しました。七ヶ浜町内6ヶ所の仮設住宅に数名ずつ分かれて訪問しました。

対話の状況は

空室の仮設住宅も多く見られ、1つの世帯で数箇所の部屋を使用している様子も見受けられました。そんな中、ご高齢の女性数名とお話することが出来ました。『体調はいかがですか？困ったことはありませんか？』などと声をかけると、『何もないね。』と言ったあとに『何もないから今でもここにいるのさ。わたし独り。でもね、今でもここにいるのは、昔から知っている人たち、ここで知り合った人たちと大変な時期を支えあつた絆があっからさ…』と。復興住宅への入居について聞いてみると、『わがねーねえー。何につけてもお金がかかるからさ…』と不安の声も聴かれました。私がお話できた皆さんは、幸いにも体調の悪いところもなく、生活されていたようでしたが、ご高齢の独り暮らしの方も多かったようでした。

訪問調査を実施する中で実態を把握し、相談活動に結び付け、仮設入居者の支援につなげることが出来ればと考えています。



七ヶ浜地域の仮設住宅を訪問



「体調はいかがですか」と問いかける



訪問調査行動前の意志統一集会（セミナー室）

専門研修から帰任しました



高津 有紀子

たかつ ゆきこ

外科医長（弘前大学07年卒）
専門分野／一般外科 消化器外科
専門医資格等／外科専門医、マンモグラフィー読影認定医

日頃よりたいへんお世話になっております。高津有紀子と申します。

がん研有明病院で2年半、腹腔鏡の手術を中心に外科の専門研修を行なってきました。

地域の先生方、患者様に信頼される医療を提供できるように努めて参りませう。どうぞよろしくお願ひいたします。

年末年始の休診のお知らせ

休診日 **12月30日(水)～**
1月3日(日)

※診療科によっては、上記以外の日程でも休診の場合がありますので、事前にご確認をお願いします。



出張市民講座開催のお知らせ

日時 **12月19日(土) 10:00～11:30**

会場 **利府町民交流館 (利府町役場) 研修室**
入場無料



講師
坂総合病院外科医長 盛口 佳宏

演題
『がん治療』のおはなし
その他：管理栄養士による
『知って得する食事の話』



利府町役場(ペア・パル利府)
【所在地】
宮城県宮城郡利府町利府字新並松4番地

地域医療連携センターから

○紹介の状況

2015年	紹介数	逆紹介数
7月	716	762
8月	738	731
9月	649	713
10月	720	789

(坂総合病院、クリニックの合計数です)

○ご紹介の際は、地域医療連携センターまでご連絡下さい。
※坂総合病院・坂総合クリニックは予約診療を行なっています。

お気軽に地域医療連携センターまでお問い合わせ下さい。
尚、緊急性の高い症状の場合や入院加療も含めての診療
ご依頼の場合は、お電話にてその旨をお知らせ下さい。

《開設時間》

●平日／8時30分～17時 ●土曜日／8時30分～12時30分
※時間外休日は、救急処置室に繋がります。

コールセンターから

○診療の予約・変更・お問い合わせは、コールセンターで承ります。

平日(月～金)：8時30分～16時30分
(小児科のみ8時から開始)

土曜日：8時30分～11時30分
(小児科のみ8時から開始)

※紹介状をお持ちの方は必ずその旨をお伝え下さい。
※上記時間以外で救急診療のお問い合わせは、病院
代表番号にお電話をお願いします。



●電車をご利用の場合
JR仙石線・下馬駅下車(駅前が病院です。)

●お車をご利用の場合
2014年4月の増築に伴い、以前に比べて第一駐車場が狭くなりました。ご不便をお掛けしますが、第三駐車場に駐車し、送迎バスをご利用いただけるようご協力お願いいたします。

編集後記

坂総合病院NEWS第2号をご覧頂きありがとうございます。

師走を迎え、毎年のことながら1年の早さに改めて驚いている今日この頃です。

さて、師走の語源には諸説あり、『年が果てる』の意味の『年果つ(としはつ)』や『四季の果てる月』を意味する『四極(しはつ)』、『一年の最後になし終える』意味の『為果つ(しはつ)』などがあるようですが、師匠の僧がお経をあげるために、東西を馳せる月と解釈する『師馳(しはつ)』が現代の『師走』の意味にも近くこの説が有力とされているようです。院内を見てみれば、医師も看護師もいつも忙しく走り回り、毎日が『師走』ですね。(T)

公益財団法人 宮城厚生協会

坂総合病院
地域医療連携センター

〒985-8506 宮城県塩釜市錦町16-5

電話 022-365-5175 (病院代表)
022-361-4700 (地域医療連携センター)

FAX 022-365-3620